

場面緘黙だったボクが言えること

- ◆なぜ、場面緘黙・不登校・ひきこもりに
- ◆再生機能としての大学教育
- ◆職業生活における困り感と配慮
- ◆雑考—健常と障害の狭間にある困難

場面緘黙とは？

「家では普通におしゃべりするのに、幼稚園や保育園、学校などの社会的な場面で話すことができない状態」 かんもくネット著『場面緘黙Q&A』より

報告者：大橋伸和（場面緘黙・ひきこもり経験者）

コメンテーター：戸田竜也（北海道教育大学釧路校）

二通 諭（札幌学院大学）

大橋伸和氏（33歳）は、小学校4年生から13年間にわたり場面緘黙の状態を呈し、その間、不登校・ひきこもりを経験しました。24歳で少しだけ声が出せるようになり、25歳で札幌学院大学人文学部人間科学科に入学しました。その後、学内で発達障害や精神的な困難を抱える学生の自助グループ『雑談会』を創設し、保護者が主宰する『ランチ会』で講演したことをきっかけに、広く自身の体験を語る活動に取り組み、現在に至っています。氏の講演は各所で絶賛されていますが、本学習会ではそこからもう一步踏み込んだ「考察」へと歩を進めたいと考えています。たとえば、生きづらさを解消するための3点セット「知る」「対応する」「心構えをつくる」¹を援用するなら、「心構え」＝「主体形成」のレベルにおいて高い峰に到達しているのではないかと考えられます。本学習会では、二人のコメンテーターを配することで、希望・勇気に加えて、より具体的な「考察」へと踏み込みます。皆様お誘い合わせのうえご参加ください。¹長沼睦雄『敏感すぎる自分を好きになれる本』2016

■日時 2017年8月20日（日） 13時受付 13:15～15:45

■定員 100名

■会場 札幌市教育文化会館 研修室 301

（中央区北1条西13丁目 地下鉄東西線「西11丁目駅」1出口から徒歩7分）

■参加費 800円（全障研会員および学生400円 全障研学生会員無料）

*全障研年会費3000円。当日入会で上記割引が受けられます。

■申し込み方法 氏名および連絡方法（電話番号、メールアドレスなど）、会員・非会員の別を明記のうえ、下記へ申し込んでください。

Eメール：nitsu@mvg.biglobe.ne.jp FAX:0154-64-7061

携帯・ショートメールによる問い合わせ・申し込みは、090-2697-0496（二通）へ。

全障研道支部第39回夏期学習会：2017年9月16日（土） 札幌市教育文化会館
記念講演「ステキを見つける保育・教育（仮）」近藤直子氏（日本福祉大学名誉教授）